

平成三十年（二〇一八）九月二十五日（火） 揖斐川町立小島小学校

# ふるさと小島小中の思い出（要旨）

（京都産業大学名誉教授） 所 功

## 一 自己紹介

①昭和16年（一九四二）12月12日、小島村野中で誕生。父Ⅱ所久雄（28）。母Ⅱかなお（25）。小作農家。

②昭和23年（一九四八）4月、小島小学校入学。同29年（一九五四）4月、小島中学校入学（九年間2クラス）、同32年（一九五七）4月、大垣北高校入学。同35年（一九六〇）4月、名古屋大学文学部史学科入学。同39年（一九六四）4月、名古屋大学大学院文学研究科修士課程入学。平安時代政治文化史専攻。

・同61年（一九八六）9月、慶応大学より法学博士の学位授与（『平安朝宮廷儀式書成立史の研究』）。

③伊勢で皇學館大学教員（助手・講師・助教授、合計9年間）、東京で文部省教科書調査官（社会科日本史の検定6年間）、京都の産業大学教授（教養部・法学部・日本文化研究所、合計31年間）。

・平成24年（二〇一二）4月より神奈川県小田原市（娘家族の近所）へ移住。千葉県柏市の公益財団法人モラロジー研究所教授（道徳科学研究センター研究主幹）・麗澤大学客員教授・皇學館大学特別招聘教授など。

※娘（昭和四十八年生れ）。小島小・揖斐川中卒。



小島中学校卒業記念（昭和32年3月）男子45名 女子42名

## 二 「ふるさと」

④『古今和歌集』(九〇五) 紀貫之(きのつらゆき)「ひとはいさ 心もしら  
ず ふるさとは 花(梅) ゴ昔の香(か) に匂ひける」  
・石川啄木(たくぼく)、岩手県白戸村、渋谷・盛岡小学校出身)『一握の砂』  
(一九一〇・24歳)一首「ふるさとの山に向ひて言ふことなし ふるさと  
の山はありがたきかな」

⑤『尋常小学唱歌集 六学年』「ふるさと」大正三年(一九一四)より。作詞  
高野辰之(長野県豊田村・永田小学校の出身、当時38歳)、作曲岡野貞一  
(鳥取県古市村・久松小学校の出身、当時36歳)

- 1 兔追ひし かの山 小鮒(こぶな) 釣りし かの川 夢は今もめぐり  
て 忘れがたき故郷
- 2 いかにもます 父母 恙(つつが) なしや友がき 雨に風につけても  
思ひ出づる故郷
- 3 志を果たして いつの日にか帰らん 山は青き故郷 水は清き故郷

## 三 短所も長所に

⑥字も絵もへた……小一の時、  
左利きを注意され右利きに直  
す。母から平仮名・漢字の特  
訓を受け、小五の時、馬場講  
師に就いて絵を習い好きにな  
る。

⑦気が弱く声も小さい……母か  
ら叱られ放し(亡父はあの世  
から見張り役)。  
小二の時、隣組の中村先生に



(生後半年で父出征)

「心をこめて大きい声で歌え  
ば楽しくなるよ」と言われ、  
実践して自信がつく。

⑧足が遅く鉄棒もダメ……中一  
の時、村内一周マラソンで完  
走。息長く頑張ればゴールに  
着ける経験。中二で応援団長。  
選手をみんなで応援する役割  
(↓共同研究の世話役)

## 四 歴史への関心

⑨読書の楽しみ……小四から児童図書委員。日本と世界の偉人伝記シリーズ  
通読。特に『野口英世』愛読↓千円札の顔(印刷局小田原工場で印刷)  
英世(明治9年〜昭和3年)・福島県三ツ和村・猪名代(いなわしろ)小学  
校出身↓ノーベル賞候補者

⑩「小島小中の校歌」、昭和30年(一九五五)、作詞各務虎雄。作曲河野信一。  
社会科の岩井先生から「小島の宮」は一三五三年、京都から避難して来ら  
れた後光厳天皇の仮御所瑞巖寺と聞き、日本の歴史に興味もつ。

- ・「小島小学校校歌」(中学は昭和35年から揖斐川中に統合)
- 1 小島の宮の あとどころ 山門高し瑞巖寺 みおやの業(わざ)の か  
しこさに 学びの道にいそしみて 叡智正しくときすまし まことの文  
化 われら開かん
  - 2 若鮎おどる 揖斐川の いも背の瀬波 にじと散る 教えの庭の明け  
暮れに 明るく強く身をきたえ 実りゆたけきわが里の とわの栄を  
われら興さん



※E-mail : [itokoro@morology.jp](mailto:itokoro@morology.jp)

HP かんせいPLAZA : <http://tokoroisao.jp>